

会 議 録

1 会議名

令和7年度第4回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

- ・今後の協議会の進め方について（公開）

3 開催日時

令和7年7月15日（火）午後6時30分から午後8時05分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委員： 磯田会長、田中（美）副会長、古澤副会長、青山委員、稲川委員、
今川委員、小玉委員、関澤委員、関谷委員、田中（実）委員、
田中（由）委員、土肥委員、保坂委員、増田委員（欠席者4名）

- ・事務局： 北部まちづくりセンター 内藤所長、勝島副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【勝島副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【磯田会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：関谷委員、田中（美）副会長に依頼
- 議題【自主的な審議】今後の協議会の進め方について進めていく。

第5期直江津区地域協議会となって1年が経過し、皆様からも、いろいろな意見をい

ただきながら進めてきた。両副会長と相談した中で、ここで一度、これまでを振り返って、これからの協議会の進め方について、皆さんからの意見をお聞きする回を一度設けた方がいいのではないかなった。このことから、より良い議論を進めていくための今後進め方について、意見交換をする機会を持たせていただきたい。

本日は、意見交換しやすいように小人数のグループに分け、A、B、Cの各グループに正副会長と事務局が入らせていただく。詳しくは、事務局から資料と意見交換の流れについて説明をしていただく。

【石崎係長】

- ・資料No.1「今後の協議会の進め方について」に基づき説明

各グループについては、会長と副会長に進行役をお願いする。まずは、お一人ずつ順に発言を促してもらった後、自由に意見交換を行っていただきたい。

グループでの意見交換の後、全体会で各委員のお考えを述べていただき、どうしたらより協議しやすい協議会になるかを話し合っていたきたいと思っている。

ー グループに分かれて意見交換 ー

ー 意見交換後、全体会に戻る ー

【磯田会長】

それでは、全体会の中で一人一人手短に、より議論のしやすい協議会にしていくにはどうしたらいいと思うかお話いただきたい。

【保坂委員】

まず1年を振り返って、自分の考えていたことと少し違うなと感じている。自主的審議について、もっと深掘りした中で話をして、ある程度結論が出てくるのかと思った。

例えば、福島城の話があって、次の月は五智公園、次の月は三八朝市となると、また福島城に戻ったときにはもう忘れている。成果は出ないとしても、ある程度の結論を出すことはできると思う。例えば、福島城であれば、母体となっている福島城を愛する会の方たちと協議しなければ進められないので、愛する会が意見交換をできる体制になるまでこの件についての協議は凍結するという事で一旦終わりにする。一旦終わりとなれば、次のところを進めていくことができる。例えば、三八朝市に関しても、利用者が少ないのでどうするかといった話をしていても、利用者がいない、出店者もないのだ

から、別の視点で考えたほうが良いというように、問題点ばかり並べても、次につながらないので、どうしたらいいか別の切り口で考えるように進めていけば、一つの問題に対して完結していくのではないかと思います。難しいと思うがそのように進めてもらいたい。

【稲川委員】

今まで結果があまり出ていないのではというのは私も感じている。協議会委員として、昨年1年間は、外野でただ耳を傾けるという状態だったが、もう少しほかにやり方があるのではないかと感じることもあった。私自身も、次にこうしたらいいのではないかとといった切り札が全く浮かばない状態で、毎回参加させていただいている。

五智公園に関しては、私の地元なので五智国府が活性化していくことが、一番望むところで、常に思っている。三八朝市については、直江津区全体の活性化から考えていくべきではないかと思う。

防災に関しては、悠長に構えるのではなく、いつ起こるかわからないので、もっと早く対応を決めなければならないと思う。

どんな上越市、どんな直江津区にしたいのか、どんなまちづくりをしたいのか、まずそこがうやむやというか、こういう直江津区であってほしいとか、こういうふうにしたいとか、こういう人のつながりがほしいとか、そういったことがなかったと思った。

【関谷委員】

1年が経過したということで新人の我々にいろいろと聞いてくださったが、我々新人の思いと、前期からいらっしゃる方たちの思いにかなり違いがあって、私たちは戸惑うばかりであった。前期からの方たちは、大勢新人が増えた中で、どうやって私たちの意見を引き出そうかと、いろいろな形でアプローチしてくださっていたと思う。その思いも今日よくわかったし、そういう意味では今日の意見交換はとてもありがたいことだと思った。

4つの課題については、1つずつをある程度まとめて、解決とまではいなくても、地域協議会としてこんな形でやっていきたいという方針を出して、ある程度のところで終わらせていって、次々とやっていけば、とりあえず今年の1年でこの4つの課題については結論を出していけるのではないかと思います。

【今川委員】

私は、長い間協議会の委員をしてきたが、福島城や三八朝市は、いつも結論が出ないまま次の年にいつてしまっている気がする。今期は、以前と比べてメンバーがガラッと

変わったので、新たな皆さんと一緒に協議していけば、いい意見が出てくるのではないかなと思う。

私の意見としては、福島城はあの場所ではどうしようもない。移転して、また一から出直すような感じで、福島城を守る会が発展していってもらえればいいのではないかなと思う。

三八朝市は、このままではなくなる感じがする。お客さんもない、出店者もいなくなる。どうしたらその課題が解決できるか全然わからない。

防災のことに限っては、能登半島地震の津波に関して、なぜ様々な問題を防げなかったのか、防災士さんとの意見交換で聞きたい。

【土肥委員】

協議会委員として1年、いろいろ聞いてみていたが、やはり何も変わらないという印象が強い。このまま4年、だらだら話しても何も変わらない、議論が行ったり来たり、市民の架け橋になるという位置づけだが、架け橋になっているのかよくわからないというのが実感である。皆さん多分思い入れがあって立候補していると思う。だから自分たちのトピックスで、福島城に力を入れたい人、五智公園に力を入れたい人等があると思う。福島城グループ、朝市グループ等に分かれて、グループディスカッションをして進めたほうが効率がいいのではないかなと思う。

月1回会議をしても、いつも意見を言う人は言って、新人はよくわからないというような温度差がとてもあると思う。少し過激な意見で申し訳ないが、1年やってみての、直江津区地域協議会の印象である。

【田中（由）委員】

まだ短い期間しか参加させてもらっていないので、よく理解できていないところも多く、毎回何を検討、協議をしているのか、そこをまず理解しようと必死になっている。

今日のような小グループでの意見交換スタイルであれば、発言しやすいのか、皆さん、生き生きと自分の意見を言っていた。様々な人が発言できる場は貴重であるし、皆さんの意見が今後いかされることを切に願っている。せっかく集まることができたこのメンバーなので、皆さんでこれからも頑張っていけたらと思う。

【小玉委員】

私の意見としては、この1年は何をするかを決めただけで、そこから何も進んでいないのではないかなと思っている。まだ入って間もないこともあるが、話している議題の中

で、何がわからないかもわからないような、もちろん私が努力をしなければいけないところもあるが、毎回言葉が難しかったりで、話している内容がわからないところも多くある。

今、1年かけて何をするか決めた状態ということは、あと3年でこの4項目をやらなければいけないとなると、速度がかなり遅いのではないかと感じている。一個一個やっても駄目なので、同時進行をしていかなければならないと考えると、4項目に対して、今日の意見交換のようにグループで分けて進めていくのが一番いいと思う。人によって熱量が違うと思うので、例えば、私は五智公園が地元ということもあり、五智公園に関することにはすごく情熱があるが、福島城については、私は何も情報がなく分からないという状態なので、分かるところや熱量があるところに対してアプローチをしていくほうがいいと思った。

【青山委員】

皆さんのお話を聞いて、私の意見としては、自分の得意の分野についてやっていきたいと思う。

三八朝市については、昔の三八朝市に出店していた人は、歩いてくる人、荷物を持ってくる人。今は、自動車を使って荷物を持ってくるという時代なので、昔のままの形態の市の考え方でやっても駄目だと思う。今の自動車時代、交通事情、スーパー等の流通事情の中において、市をどのようにやっていくか、基本的なことから考えないと、どれほど頑張っても駄目だと思う。

今の若い人のセンスある考えで、若い人も来るような市場にしないと、絶対に発展しない。私も商売をしているから言うのだが、それはやっていかなければ駄目だと思う。

【関澤委員】

1年と少し経過したが、いまだに地域協議会の立ち位置がよく見えてこない。五智公園にしろ、三八朝市にしろ、市民団体がそれぞれの専門分野で活動している。そこへ我々地域協議会が入って何をするのかがよくわからない。

五智公園に関して言えば、私は五智公園を育てる会の顧問をしている。先日も五智公園を育てる会と市の都市整備課、環境保全課に町内会長協議会を含めて、17、8名で懇談会を行った。これは毎年やっていることから、市の対応が薄いということはないと思うが、住民の皆さんの関心が低いというのは確かだと思う。その中で、この協議会が入っていったって何かできるのかということが一番問題であって、育てる会が欲しがってい

るのは、資金であり、働く労力であり、今は、イノシシにたくさんやられているので、イノシシの対策方法であつたりを求めているのであって、ここで、どうするのかということ話をしても、絵に描いた餅ではないかという気がする。

それから防災に関することについても、各町内それぞれが防災訓練や、能登半島地震を踏まえた設備投資など、様々なことを進めている。そこへ地域協議会が入っても、「何を言うんだ、余計なことだ。」と言わざるを得ないと思う。

福島城に関しては、あまり興味がないので、このままでいいと思う。

三八朝市は、先にご意見があつたように、このままでいけば消滅すると思う。私は、3、40年前は天王町にいて、その頃は非常に混んでいた。原因は分かっている、それをどうするかということである。人口を増やせといっても、増やせるわけではない。ここで話してどうこうなるわけではないという気がする。

【田中（実）委員】

福島城については、私の仲間内で数年前から検討して考えたのは、今の状態ではなかなか観光にはつながらないので、春日山、郷津、直江津、福島城とつなげて捉えれば、ある程度ルートができるので、観光につながるのではないかと考えている。

【増田委員】

協議会としての進捗、進み具合が大変遅い。月に1回やっているが、一ヶ月つと何をやったか忘れてしまうので少しも深まっていけない。根本的にやり方を変えなければいけないと思う。

もっと、町内会長協議会の皆さん、住民の皆さんと距離を縮めないといけない。これは前回私が町内会長の皆さんや住民の皆さんとの意見交換を提案して、やるということで皆さんから了解をいただいたが、いつやるのか、全然ロードマップができていないので、これはいつやるということを決めてほしいと思う。

防災に関しては、こんなに悠長にやっていていいのか、私は、防災士会さんと地域協議会と町内会長協議会の皆さんの三者が一体になって、地域独自の予算を使って地域の防災力を上げる、例えば、講演会等いろいろなことを、すぐやるべきだと思っている。

【田中（美）副会長】

地域協議会のことに関しての理解が難しく、自分たちの役割がわからないというご意見が複数あつた。何をやっていいのかわからなくて、やっていいことがわからないから、自分がどちらに進んでいいのかわからないし、やる気が薄くなってきてしまう。自

分たちの立ち位置、協議会とは何ぞやというところを、もっと簡単な言葉で皆さんと理解できたら、もう少しやりがいにつながるのではないかと、進む方向が定まるのではないかと思う。今日のように、グループでの話し合いは若い人が気軽に発言できるので良いと思った。

【古澤副会長】

私たちの班では、全体の中では意見が言いづらい雰囲気があるということである。また、1つの課題がなかなか解決しないという意見が皆さんから出ている。

協議会は確かに頭が痛い、行きたくないという方も中にはいらっしゃると思うが、生き生きとした、また出席したいと思える地域協議会を目指して、今日出た貴重なご意見を参考にして頑張っていきたいと思うので、皆様方のご支援、ご協力をお願いしたい。

【磯田会長】

たくさん意見をいただいた。普段の思いの丈を発することがなかなかできなかった1年と少しだったと思う。会の運営方法についても、いろいろ思慮はしたが、行き届かなかったのかと反省をしている。

たくさんいいアイデア等が出ていた。これを一つ一つここで言うのは差し控えたいと思うが、今後の会の運営の仕方について、まずは改善案を正副会長会議の中で揉んで、皆さんに提示をしたいと思っている。それとともに、今期はあと2年と少しあるので、議論のロードマップ、ここまでこういうふうにしていこう等、ある程度ビジュアルでわかるようなものを提案したいと思う。それは確定ではなく、皆さんと揉んで決めていきたい。

圧倒的に議論の時間が足りないというのは事実で、自主的審議を真剣にやろうとすれば、ほかの審議事項や、諮問等も入ってくる、市民団体の人たちとの意見交換もやっていくとすれば、月に2回はやっていかないと、実りあるものにはなっていないのではないか。そこに向かって回数を増やせばいいというわけではないが、少なくとも前にやった議論が忘れ去られて、また一からというようなことのないように、少しエンジンをかけ直してやっていきたいと思っている。

今、地域自治推進プロジェクトが進んでいて、地域政策課から地域協議会に説明があったところである。その中で、地域協議会が何をしていかなければいけないかという部分に地域ビジョンの策定があり、それは令和10年度からだと言っているが、本来であれば我々はその先を行かなければならないと思っているので、そういうことを踏まえて

議論をしていくことが必要だと思う。今日の意見を拾い上げて、また皆さんの思いを汲み取りながら、楽しい会議、成果の出る会議にしていきたいと思う。

協議は以上で終わりとする。

その他に移る。事務局から何かあるか。

【石崎係長】

・次回協議会：8月19日（火）午後6時30分から

福島城を愛する会と上越市防災士会直江津支部の2団体との意見交換が予定されている。

【磯田会長】

その他に何かあるか。

【増田委員】

地域独自の予算の新規事業の締め切りが8月末になっている。今、直江津区がどのような状況なのか、事務局に報告をお願いしたい。

もう1つは、直江津にとって防災は重要事項である。令和8年度の地域独自の予算で、防災士会直江津支部、町内会長協議会、地域協議会との合同で防災講演会を実施する、あるいは防災に関するチラシを作るということを、令和8年度の地域独自の予算に申請したらどうかと思っている。皆さんからご了解をいただければ、申請に向けて、会長、副会長、手を上げた人で準備をしたいと思うので、会長から皆さんに諮っていただきたい。

【磯田会長】

皆さんに意見を伺う前に、増田委員のビジョンがよく見えていない部分がある。また、それ以前に防災士会との意見交換が先にあるべきではないか。

市との意見交換は先般させていただき、市の考えを聞き、我々にやってもらいたいこともお聞きできたと認識している。次に、防災士会との意見交換をやろうというのが、この会の共通認識なので、そこを踏まえた上で、令和8年度の地域独自の予算事業に出すべきものかどうかを実施主体も含めて議論していくのが筋だと思う。

【田中（実）委員】

増田委員の意見についてだが、我々地域協議会と防災士会と町内会長協議会の3者で何をやりたいのか理解に苦しんでいるのだが、何をやられたいのか。

【増田委員】

3者で計画をして、防災講演会をやってはどうかと思っている。複数回、住民の皆さんを対象に防災講演会をやるということが1つ。

もう1つは、住民の皆さんに、直江津独自の防災に関するチラシを作って配りたい。せっかく3者が集まるので、住民の皆さんも含めて意見交換をするということを計画してはどうか。それを、令和8年度の地域独自の予算に提案したらどうかということである。今、会長から、防災士会と意見交換があるから、その後という話があったが、事務局がそれから独自の予算事業に提案してもよいということであれば、それを踏まえてまとめたいと思う。

【石崎係長】

提案が間に合うかという話であるが、間に合う、間に合わない以前に実施する団体があればそもそも提案には至らないので、まずそこを固める必要がある。

新規事業の提案期限は8月末となっている。提案すると分かっている、ある程度実施内容も決まっているということであれば、完全な形になっていなくても受け付ける。

【磯田会長】

増田委員の今の提案は、講演会、チラシと具体的に2つ提示されたが、実施内容や、そもそも協議会がどこまで関わって取り組むべきなのか議論しなければならない。また、委員の人たちにオーソライズした上で、提案団体との詰めをしていかなければいけないと思う。

【古澤副会長】

皆さんの意見を聞きながらやるというのが本来の地域協議会だが、皆さん防災に関してすぐに意見を出すのは難しいと思う。どうやって地域協議会が協力していくのか、そこから入っていかないと難しい。根本のところから話を進めたほうが皆さん納得するのではないかと思う。

【磯田会長】

これは提案だが、次回、防災士会との意見交換をするが、その中で、例えば、増田委員の提案について、もう少し詳しく、あるいはもう少し深掘りしたものを提案していただいたり、皆さんとその場でも議論できるのではないかと思う。そこで議論が足りなければ、次々回の協議会や、時間的にタイミングが足りなければ、その前に別途話し合う機会を設けるというようなことで進めていきたいと思うが、皆さんそれでよいのか。

【田中（実）委員】

今の防災の件について、私は理解できない。

次回の協議会で防災士会の方たちと意見交換するが、おそらく地震や津波に関する意見交換になるだろうと思う。私は西本町に住んでいるが、当町内では地震時の避難経路や避難先等の資料が、再度周知という形で回ってきている。町内会長もそれぞれの地区で動きは違うかもしれないが、そのように一生懸命やっておられる。そんな中でなぜ我々地域協議会が防災士の方と協力して活動するのか。また地域独自の予算事業を提案するのか。その意味が理解できない。我々は諮問機関である。

【関澤委員】

同感である。

【磯田会長】

地域協議会の役割は、1つは市長の諮問機関であるということ、もう1つが自主的審議をしていくということ。この自主的審議は、地域の課題解決に向けた議論をするということであるので、地域協議会が防災の話をするのは理にかなっている話だと私は認識している。

地域協議会がどこまでどのように関わるのか、また関わるができるのかということとは、議論の中やいろいろな方々との調整の中でやれるか、やれないか、やるべきか、やらないでいいのかとなってくると思う。我々が関わるべきこと、関わった方がより課題解決に進んでいけるのであれば、それは関わっていくべきだと私は思い、この活動をしている。

前回、市の危機管理課が来られたときに、私が最後に、地域協議会としてどういうことができるのか、あるいは、どういうことが期待されるのかというような質問をした。全体的には、ものすごく求められている雰囲気ではなかったことは確かだが、一つは地域協議会から住民の方々へ、市の考え方や今思っていることを、より伝えていってほしいというような話があった。ハザードマップ等についても、自分たちの住んでいるところからどのように逃げたらいいのか、あるいは、市が説明に行ってもなかなか伝わらないところを、伝えてもらいたいというお話があった。

もう1点、避難所運営委員会という避難所を自主的に運営する組織を作っている地域があるとの話があった。市としてそれを作ってくださいということではないとのことであったが、避難所運営は住民主体で行われることが望ましいとの話があった。住民主体でそのような動きがあった場合には、地域協議会でも協力できることはあるのではない

かと思う。我々協議会が動けることを少し整理してやっていく。増田委員が先ほど言った、講演会やチラシというのは、まさに市が考えていることを、より明確に、何回も何回も住民たちに伝えていくこととして、市が求めていることでもあると私は思っている。この協議会の中でオーソライズされて、皆さんの中でそれをやろうとなった際にはぜひ進めていければと思っているし、そういうことを、直江津区地域協議会では考えていきたいと思う。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。